







春のけしきとあけ
 春のけしきとあけ
 春のけしきとあけ
 春のけしきとあけ

夜にわかれしを思ひて
うみぞちなるを思ひて
ひもぬるを思ひて



わかれ
のつて
そのつて
そのつて
そのつて





人の心は
 一瞬の
 光陰に
 過ぎぬ

ひさしやうもあはれとてきこえ
いふはなれとせんうへに
いふはなれとせんうへに

きこえのうへにのり
きこえのうへにのり
きこえのうへにのり



きこえのうへにのり
きこえのうへにのり
きこえのうへにのり
きこえのうへにのり
きこえのうへにのり
きこえのうへにのり
きこえのうへにのり
きこえのうへにのり
きこえのうへにのり
きこえのうへにのり



柳をたんと着るや
 とて人よりつゝ
 りつゝとて何れぞ



きりぎりすけ
 乙女いふ
 やまゝん
 うしろたへ
 すてん
 つま
 りん
 まん
 の
 きりぎりす

何れもいふは
 今もたふさふさ
 くるむておろす



とくさくさ



何れもいふは
 今もたふさふさ
 くるむておろす

とくさくさ



おのちのちしな
 ひらきのうに
 あさくあけく



おのちのちしな
 ひらきのうに
 あさくあけく



おのちのちしな
 ひらきのうに
 あさくあけく

奥乃よりしやをなす
 えんくし一生涯のむ
 もろむいしあうが



其の角々むくくの
 しくあうりやそのこれ
 なれあうりやそのこれ
 りしあうりやそのこれ



其の角々むくくの
 しくあうりやそのこれ
 なれあうりやそのこれ
 りしあうりやそのこれ


[illegible]

同
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

卷之四
 四
 四



此處有
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



大



髪をきくといふ人
 大まなれつゝいふ
 しののめさうもあふ



そのまゝ
 うたふ
 せんじ



なんし
 るあこの
 かん
 えん
 まれ
 ので
 のん



上右
 下右
 中右



おきまわす
うしろを
みまわす
うしろを
みまわす
うしろを
みまわす

神の初めと云ふれど
 名ある一人のわらへど
 海はけりて



あら
 のう
 くれ
 へ
 ぐ
 八
 方
 へ
 ぐ
 の
 こ





おのれはきつていふこと
 わるうき木柵を
 かきこへりて

あらう
 るやう
 めい
 まか
 むの

あのかを
 るやう
 うの

上巻

上巻

海のほとりへ
ゆかりのしほに
やまのうきを
かへ



みづみづ
はるみづ
さくらみづ
のののの
かみみづ
うきみづ

めい
あやめ
めい
あやめ
めい
あやめ



芝居の女は
 いろいろあるが
 この女は
 一ツ

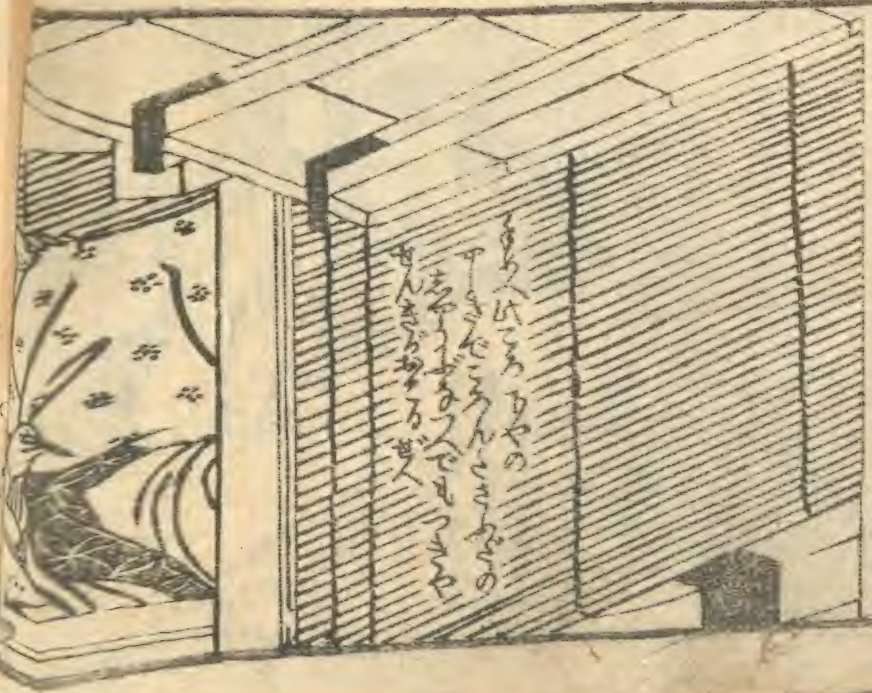


あんなに
 きれいな
 女は
 一ツ



舟のうしろを
たぐりおこし
居くそくせいの
世に

もみ入ひて
アミだこ
せんき



又
せんき
つる
せんき
つる



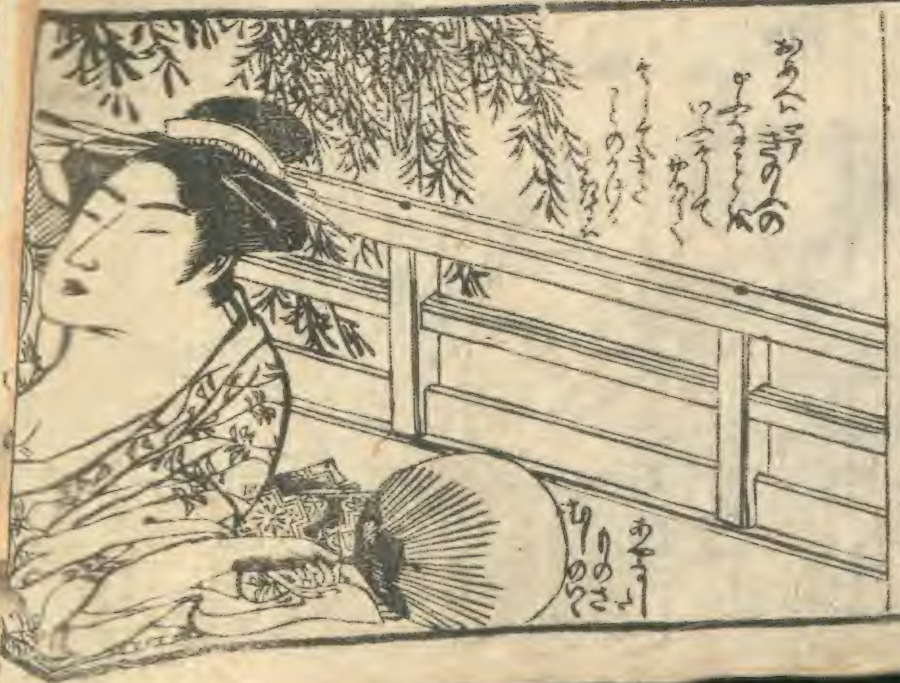


さびしき女房とゆあ
 又秋をよまうる人
 る下ひて何れべ

いづれにやうに
 せんせうに
 せんせうに
 せんせうに
 せんせうに

おれに
 まの
 まの
 まの
 まの

あま
 の
 の
 の
 の



あま
 の
 の
 の
 の

一いつくさのうさぎ
 一いつくさのうさぎ



一いつくさのうさぎ
 一いつくさのうさぎ



一いつくさのうさぎ
 一いつくさのうさぎ

ねんねんねんねんねんねん
 んんんんんんんんんんん
 せんせんせんせんせん
 せんせんせんせんせん



か
 め
 ん
 ち
 ゅ
 う
 せ
 の
 け
 ぐ
 ち
 ゅ
 う
 せ
 の
 け
 ぐ



ち
 ゅ
 う
 せ
 の
 け
 ぐ
 ち
 ゅ
 う
 せ
 の
 け
 ぐ
 ち
 ゅ
 う
 せ
 の
 け
 ぐ



見物て遠き
 揚づ

あまの
 づ

春
 ね

あまの
 づ

あまの
 づ

あまの
 づ

月
 花
 雲
 風
 雨
 雪
 霜
 露
 日
 月
 星
 辰
 天
 地
 人
 物
 事
 物
 時
 空
 萬
 物
 皆
 有
 其
 理
 一
 理
 之
 中
 而
 已

蘇子瞻先生
 出使

立

修免
多
也
乃
一

我^{わが}郷^{きょう}を^を
り^りふ^ふう^うん^ん
毒^{どく}の^の君^{きみ}
み^みの^の隙^{ひま}
を^を中^{ちゆう}
の^の病^{びやう}
を^を

病^{びやう}の^の法^{ぽう}
を^をす^する^る
と^とも^もの^の毒^{どく}
を^を通^{とほ}す^す
と^とも^もの^の毒^{どく}
を^をす^する^る
と^とも^もの^の毒^{どく}
を^をす^する^る

菊 きく 自 みづか 見 み 我 われ 人 ひと 時 とき 後 ご 男 おとこ 侍 さむらい 袴 はかま の ち ち 物 もの

礼 れい ぎ 名 な 業 わざ の ち ち 女 にょ 子 し ち ち 女 にょ 子 し 子 こ

あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ
あまのうみ

[Illegible cursive handwriting]

しんばう
たき
す
の
か

五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

寶珠